

日本メディア英語学会 会誌公開規定 FAQ

＜はじめに：なぜオープンアクセス（OA）化するのか＞

Q1. なぜオープンアクセス化するのでですか？学会のメリットは？

論文が世界中からアクセス可能になることで、本会誌および会員の研究成果の国際的な認知度が向上し、引用機会が増えることが期待されます。また、DOAJ（下記参照）のような国際的なディレクトリへの掲載を通じ、学会全体の信頼性を高める狙いがあります。

Q2. J-STAGE や DOAJ とは何ですか？

- J-STAGE：国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する日本最大の学術プラットフォームです。本会誌はこの J-STAGE で公開されます。
- DOAJ：審査基準にもとづいてオープンアクセス誌を掲載する国際ディレクトリです。ライセンス明示などのベストプラクティス達成誌には「DOAJ Seal」が付与されます。本会も DOAJ への登録を目指します。

Q3. 誰でも無料で読めると、論文や学会の価値が下がりにませんか？

現代における論文の価値は、どれだけ多くの研究者に読まれ、引用され、次の知見へと繋がったかという「影響力」で測られます。OA は可視性と引用可能性を最大化する仕組みです。結果として、著者と学会の権威はむしろ向上します。

Q4. 著作権を著者が持つと、管理が大変なのでは？学会に任せる方が安全では？

従来の投稿規定の「著作権の学会への譲渡」は、著者が権利の多くを手放す運用でした。改定後は、著作権は著者に帰属しつつ、学会には公開・保存・頒布のための必要十分な利用許諾を付与し、読者には CC ライセンス（下記参照）で利用範囲を明示します。著者は自著の書籍化等も自律的に行えます。

Q5. オープンにすると、海外などで論文が無断利用されませんか？

CC ライセンスは「どこまで使ってよいか」を世界共通のルールで示します。「出典を明記（BY）」「営利目的不可（NC）」等（下記参照）の条件が法的根拠を伴って明示されるため、無断利用の抑止になり、万一の際の対応根拠にもなります。

Q6. なぜ今、この変革に取り組む必要があるのですか？

- 研究スピード対応：世界の研究は最新論文を即時参照して進みます。
- 若手研究者の環境：迅速な公開と国際的フィードバックはキャリア形成に不可欠。
- 学会価値の転換：会誌は学会の「国際的な顔」となり、認知度向上や会員基盤の強化に繋がります。

＜1. 基本的な考え方：オープンアクセスと著作権＞

Q7. オープンアクセス（OA）とは何ですか？

研究成果をインターネット上で誰でも無料で読めるようにすることです。再利用条件（ライセンス）が明示される点が重要です。

Q8. 著作権は誰のものになりますか？

第 16 号以降は著者に帰属します（第 15 号以前は学会帰属）。著者は自著の活用が柔軟になり、国際標準にも合致します。学会は公開・保存・頒布の非独占的権利を著者から許諾されます。

Q9. クリエイティブ・コモンズ (CC) ライセンスとは何ですか？

著作者が「この条件なら著作物を自由に使ってよい」と示す国際的な仕組みです。CCにより、世界で利用されやすくなり、引用機会も増えやすくなります。

Q10. 「CC BY-NC 4.0」などの略号は何を意味しますか？

- CC = Creative Commons
- BY = Attribution (表示：著者名・出典の明記)
- NC = NonCommercial (非営利に限定)
- ND = NoDerivatives (改変禁止)
- 4.0 = ライセンスの最新バージョン (国際的に統一適用可)

Q11. CC ライセンスを付けると、著者の権利はなくなりますか？

いいえ。CCは第三者への許諾条件であり、著者自身の利用は制限されません。

<2. 著者の権利と論文の活用>

Q12. 自分の論文を、営利目的で利用できますか？

はい。著者自身は営利・非営利を問わず、学会の許可なく自由に利用できます (書籍収録、有料講演での配布、研修教材など)。

Q13. 自分の論文を、所属機関のリポジトリや個人サイトに掲載できますか？

はい。J-STAGEで公開された公開用PDFをそのまま掲載できます。出典・DOIを明記し、可能な限りJ-STAGE版へのリンクを付けてください。

Q14. 自分の論文を翻訳して、海外で出版してもよいですか？

はい、可能です。原著が本会誌であることを明記してください。

※CCは第三者への許諾条件であり、著者自身の利用は制限されません。原著が CC BY-NC-ND 4.0 でも、著者自身による翻訳・商業出版は可能です。

Q15. 共著論文の場合、どのように扱えばよいですか？

共著者全員の合意に基づいて利用してください。特に営利利用では、事前に全員の同意を得ることを推奨します。

<3. 第三者による論文の利用 (引用・教育利用など) >

Q16. どのライセンスを選べばよいですか？

- 原則は CC BY-NC 4.0 (非営利なら出典明記で改変・翻訳も可)。
- 改変を望まない場合は、申請により CC BY-NC-ND 4.0 (改変禁止) も選択できます。

Q17. 「非営利」と「商用」の違いは何ですか？

- 商用利用の例：企業の製品・サービス開発／有料出版物への収録／有償のセミナー・研修での教材利用／広告・マーケティング素材での利用 など。
- 非営利利用の例：学校・大学内での教材作成 (販売を伴わない場合)／学術目的が主体の大学と企業の共同研究 (収益化を伴わない場合) など。
※大学出版会の書籍収録や大学発ベンチャーによる出版等は、販売の有無・収益性により商用と判断される場合があります。個別にご確認ください。

Q18. 授業や研究会で論文を使いたいのですが。

非営利目的の教育・研究活動では、ライセンス条件に従い、出典を明記すれば自由に利用できます (授

業配布、研究会資料など)。

Q19. 論文を引用するときの注意点はありますか？

著作権法上の「正当な引用」は、ライセンスに関わらず自由です。出典を明記し、引用箇所を明確に区別してください。

Q20. 他の学会誌から転載を求められた場合はどうすればよいですか？

- 営利出版物へ転載する場合、第三者は著者の個別許諾が必要です。
- 出典明記と J-STAGE リンクの掲載を依頼してください。

<4. AI・情報解析での利用>

Q21. 私の論文は AI の学習データなどに利用されますか？

非営利の学術研究を目的とする情報解析 (AI 学習、自然言語処理、テキスト・データマイニング等) は、ライセンスの範囲内で利用が許可されます。

- 利用例：大規模言語モデルの学習、コーパス言語学の分析、教育効果測定のためのデータマイニング など。
- 制限：営利目的での AI 学習・情報解析は著者の事前許諾が必要です。CC BY-NC-ND 4.0 の論文は改変不可であり、翻訳・抜粋編集・図表加工など二次的著作物の作成には追加許諾が必要です。

※日本国著作権法第 30 条の 4 (情報解析等の非享受利用) および正当な引用に該当する利用は、この限りではありません。

<5.その他>

Q22. 論文掲載に費用 (APC) はかかりますか？

かかりません。本会誌は会費で運営します。

Q23. 「無料公開」と「オープンアクセス」は同じですか？

違います。無料公開は「読める」こと、OA は「読めて再利用条件が明示されている」ことです。

Q24. J-STAGE で公開されると勝手に使われてしまいますか？

ライセンスの範囲内でのみ利用されます。無断での商用利用等は禁止で、違反は著作権侵害として対処できます。

Q25. DOI とは何ですか？

論文に付与される永続的識別子です。URL が変わっても DOI で論文を特定でき、正確な引用に不可欠です。本会誌では J-STAGE 登録時に付与されます。

Q26. オープンアクセス化で学会にメリットはありますか？

論文の可視性・引用数向上、国際的認知度向上、DOAJ 収載による信頼性向上、若手研究者への公開機会の拡大、等が期待できます。

お問い合わせ先

日本メディア英語学会 本部事務局